

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 28 年度後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	津久井 達哉	会員番号	0032672
申請者の 所属・職名	東京大学大学院医学系研究科分子予防医学教室・博士課程4年		
出席会議名	Keystone Symposia, Fibrosis: From Basic Mechanisms to Targeted Therapies (Q3) February 7-11, 2016		
発表論文 タイトル	Intratracheal cell transfer demonstrates the profibrotic potential of resident fibroblasts in pulmonary fibrosis		

実施結果:

この度はTadamitsu Kishimoto International Travel Awardを賜り、誠にありがとうございます。岸本先生、選考委員の先生方、そして推薦して下さいました松島先生にこの場を借りて御礼申し上げます。

2月7日から11日までアメリカ・コロラド州・Keystoneで行われたFibrosisのKeystone Symposiumに参加して来ました。Fibrosisの集会は数あるKeystone symposiaの中で近年最も参加者を集めている集会の一つであり、その盛況を鑑みてこれまで2年毎に開かれていたのが今回から毎年の開催になりました。また、10社の企業から協賛を得ており、製薬業界における線維症関連疾患の注目度の高さが伺えます。さらに今回はStromal cells in immunityとのジョイントミーティングでもあり、合計で500名超の参加者がいました。話題は各臓器の線維症に対する基礎的研究はもちろん、腫瘍とstromal cellの関係や、さらには新規治療標的や進行中の臨床試験の話など多岐に及んでおり、活発な議論が行われていました。

私はワークショップで口頭発表の機会を頂きました。線維症に対して高い専門性を持つ大勢の聴衆の前で発表することは骨の折れる出来事でしたが、同時に最近の自分の仕事を効果的に宣伝してアドバイスを貰う絶好の機会でもあり、このような舞台に立てたことを幸運に思います。また、質疑応答での自分の拙い回答とシンポジスト達の格調高い議論を比べることで、現在の自分の立ち位置とこれから目指すべき目標を明確にすることができました。

会中には国内外の著名な研究者をはじめとして、企業の研究員や雑誌の編集者まで、多種多様な人々と充実した交流を行うことができ、研究の内容に限らず研究者のキャリア形成などについて情報交換を行いました。また、卒業後に留学する研究室のPIとプロジェクトについて話し合う機会も持つことができ、非常に有意義な会議となりました。

本会議に参加することで得られた経験を糧にし、今後も研究に邁進していきたいと思っております。